

コロナ禍における道德教育の実態に関する 全国調査の結果と分析（3）

- テキストマイニングを用いた自由意見の分析 -

※ 質問用紙の最後に、「コロナ禍における道德教育と「特別の教科 道德」の充実に関して、ぜひ伝えたいことや、ご要望、ご意見などあれば自由にお書きください」とお願いして記述いただいた内容の分析

担当 小山久子

「KH Coder」 (基本的な分析)

- ①抽出語リスト
(データから抽出された語を度数表示)
- ②KWICコンコーダンス
(元の文から検索して「語」の使われ方を確認)
- ③共起ネットワーク
(抽出語間あるいは抽出語と外部変数との関連性と強さを表現)
- ④関連語検索
(特定の抽出語と関連性の強い抽出語を検索する)

1-1 抽出語リスト（上位10語、降順）から読み取れること

1. ぜひ伝えたいこと

#	抽出語	品詞/活用	頻度
1	道德	名詞	101
2	思う	動詞	56
3	授業	サ変名詞	55
4	教育	サ変名詞	45
5	コロナ	名詞	40
6	教科	名詞	38
7	感じる	動詞	32
8	考える	動詞	32
9	大切	形容動詞	30
10	子ども	名詞	27
11	評価	サ変名詞	21
12	学校	名詞	18
13	多い	形容詞	18
14	先生	名詞	17
15	現場	名詞	16
16	時間	副詞可能	16
17	教材	名詞	15
18	教師	名詞	15
19	充実	サ変名詞	15
20	必要	形容動詞	15
21	差別	サ変名詞	14
22	指導	サ変名詞	14
23	教員	名詞	12
24	心	名詞C	12
25	人	名詞C	12
26	行う	動詞	11
27	本校	名詞	11
28	教科書	名詞	10
29	生徒	名詞	10
30	意識	サ変名詞	9

質問項目1 「ぜひ伝えたいこと」において

① 「コロナ禍における道德教育・道德科に関する考え方」

概して、コロナ禍の中であってこそ、**道德教育・道德科が一層必要**であること、従って授業時間の確保も必要であることが述べられていた。

② 「コロナ禍の子どもの状況」

コロナ禍の中、その影響を受ける**子どもの厳しい状況**がある一方、その中で**学び続ける子どもの姿**が報告されている。

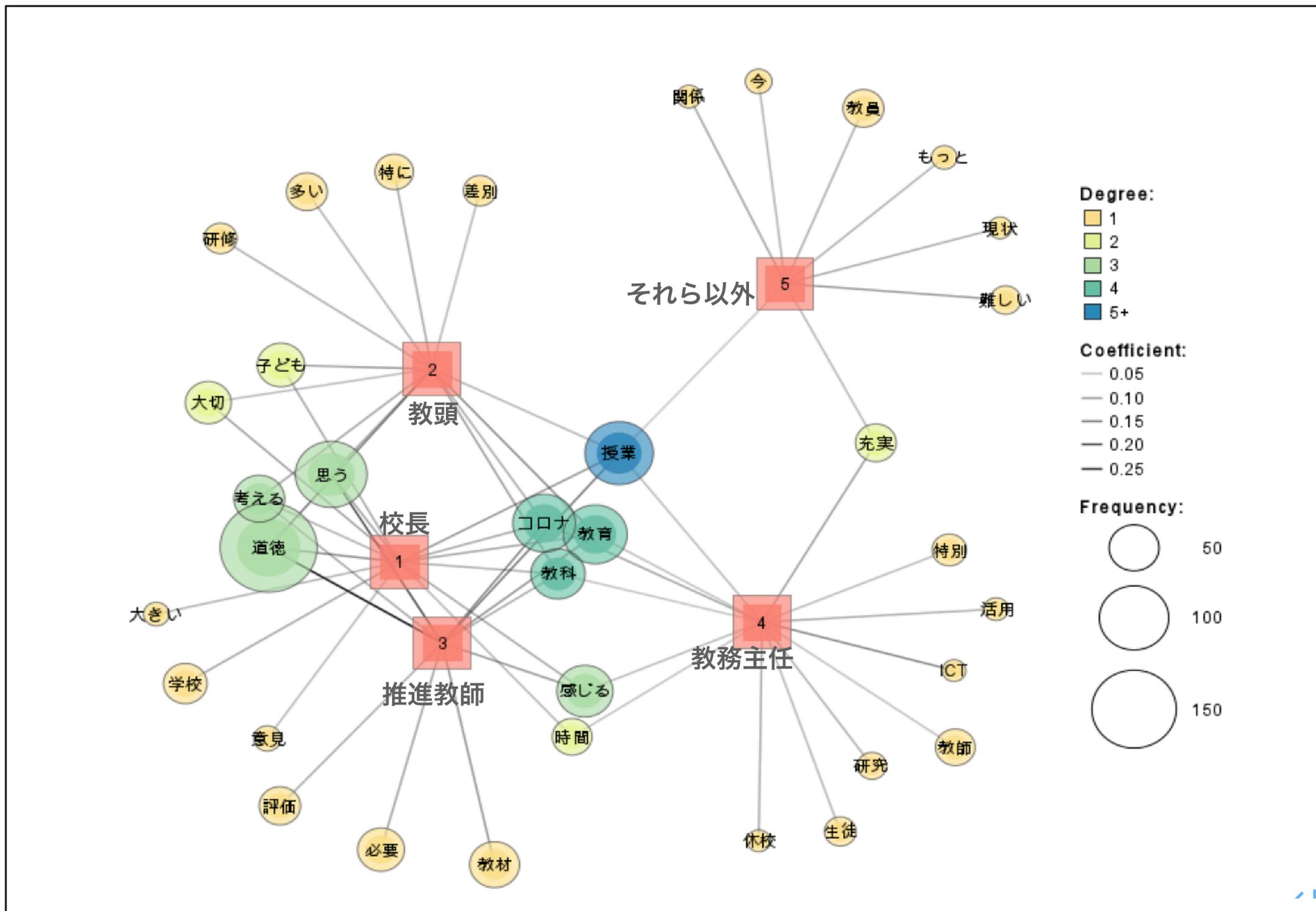
③ 「コロナ禍での道德科の推進状況」

通常の子ども同士の交流は**困難**であったけれど、教師が苦勞しながらも着実に授業を進めようとしていた。

自作教材を作成したり、実際の状況を教材にしたりする等、コロナ禍での授業の工夫が見られる。また各校で進められていた取り組みについての紹介があった。

上位10語の中には、各質問項目における**共通抽出語**が4語「道德」「思う」「授業」「コロナ」、**独自に存在する抽出語**は質問項目1で「考える」「大切」「子ども」、2では「教科書」「指導」「資料」、3では「必要」「学校」、4では「特に」「先生」「学級」「本校」。ここでは、共通抽出語「コロナ」が、各質問項目でどのような意味をもつのかについて考察する。

4 『外部変数「回答者の職階」と抽出語の関係性を表した共起ネットワーク』から読み取れること



- 回答者
 職階1【校長】
 職階2【副校長（教頭）】
 職階3【道徳教育推進教師（道徳主任）】
 道徳教育・道徳科に関わる中心性の高い抽出語との関係が強く多い。
- 職階4【教務主任（研究主任）】も回答の中に道徳教育・道徳科に関わるの抽出語との関係が強く多い。
- 職階5【(それら以外)】は道徳教育・道徳科に関わる抽出語との関係は他の職階ほどの見られない。
- 職階3の道徳教育推進教師(道徳主任)は当然のことながら抽出語「道徳」との関係性をはじめ、「授業」「評価」「教材」等、どの抽出語、どの職階とも関係性が強く道徳教育推進の役割を果たすべく取り組んでいる、道徳に関わって組織の中心に位置して取り組んでいることが顕著である。
- さらに、これまで以上に本年度は校長が道徳に関わるどの抽出語とも関係が多く強い。リーダーシップを取っている

5 ま と め

- ①「今回はコロナ禍における道德教育に関する調査である」ことから、子どもや教職員の安全・安心を守りながらの教育実践、及びその展開にあたり、**学校現場の苦勞**が多く述べられていた。
 - ・全国のコロナ禍の状況は異なるものの、道德科をはじめ全教科等において、大なり小なり休校・リモート授業等の影響は大きく、**道德科をはじめ、各教科等の授業時数確保**、さらに、**授業展開での交流等の困難さ**があったことは察するに余りある。
- ②その中であって、2020年度のアンケート調査自由記述分析結果を見ると、改めて日本の**教師の教育に真摯に向き合う姿**が上記の分析にも浮かび上がる。
 - ・コロナ禍の中、改めて道德教育の大切さに気づいたこと
 - ・授業の改善・工夫に取り組んでいること
 - ・主体的・意欲的に教員が取り組むよう導くリーダーシップおよびマネジメントが必要であるということを校長自らが認識されていること
 - ・道德教育・道德科推進の本質はコロナ禍であろうとなかろうと人としての道德性を育てる重要な時間でことにあること多くの回答者が実感されている。
- ③**独自に工夫した取り組み(エンカウンター、ICTの活用、『哲学対話』など)**を進める学校がある。
- ④これまでのアンケート結果は、研修内容(授業展開の工夫、評価の具体例、学習課題と中心発問との関連)等、積極的な実践を伴った具体的事実や考えが示されていた。今回は、そのような記述の仕方は少なかった(記述内容に変化)。それと共に、抽出語「授業」では、4項目合同抽出語中3位、「評価」は17位、「研修」は31位である。教科化への移行期間における道德熱がコロナ禍で冷却された感が拭えず、**これからの道德教育・道德科の推進が危惧**されるところでもある。

◎**管理職のリーダーシップのもと、チーム学校として、実践と研修の継続の大切さ**